

■児童の学力の状況

○「基礎タイム」（朝のモジュール学習）の積み重ねにより、漢字書き取りの力が向上してきた。
 ○「全国学力・学習状況調査」の結果から、表の読み取りや自分の考えを書くことには意欲的に取り組める児童が多い反面、話の中心を聞くことや場に応じた適切な言葉の使い方、既習学習等、基礎・基本の定着に課題が残る児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○児童が主体的に学習に取り組めるように基礎・基本の定着が図れるような授業の設定をしているが、まだ十分にできていない。
 ○児童一人ひとりの考えを友達同士で交流する場面で、対話を通して互いを高め合いながら、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。
 ○授業規律を「上二小での生活や学習の基本とするルール」に基づき、全学級が同じように指導していく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用を図るために、「上二小での生活や学習の基本とするルール」、「あいさつのレベル7」を基に、学習や生活で基本とするルールの徹底を図る。
 ○「上二小授業スタンダード」として、単元及び1単位時間の学習の流れや板書の仕方を共通にし、問題解決型・探究型の授業を基本スタイルとして実施する。特に「読み解く力」を高める手だてを各教科等で推進していく。
 ○個に応じた指導の充実を図るために、算数少人数加配教員や学力向上専門員を活用した、習熟度別指導など指導形態を工夫し、基礎・基本の定着・向上を図る。また、補習する時間を「昼スタ」と名付け、年間40回実施する。
 ○校内研究は「探究の時間」とし、「見付ける！考える！表現する！上二っ子」を目指し、児童の「気付き」や「探究心」を育む指導の工夫を、授業を通して研究していく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○「上二小授業スタンダード」として、学習の流れを①課題・めあての提示②予想・見通し③自分で考える④友達と考える⑤まとめ⑥振り返りとし、主体的で、対話的な学習を各教科・全学級で進める。	○学びのエリアの授業公開の中で読み解く力の育成について協議する場を設ける。 ○本時の具体的なめあてを提示し（INPUT）、自分の考えをもって主体的・共感的に学び（THINK）めあてに対して振り返り（OUTPUT）を行う時間を毎時間設定する。	○今年度より「探究の時間」と名称を改め、校内研究を通して探究していく力を育てていく。また、他教科とも連携していけるように、単元配列表等に明記し、計画的に進めていく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学びのエリアのめざす児童像を「自律」に共通化し、児童・生徒間の交流を実践していく。 ○学びのエリアで「読み解く力」を育成するために、各教科毎に基礎的読解力の6つの視点について、共通に取り組めることを検討し、各校で実践する。 ○「ICT機器の活用」について、情報交換や授業公開を行うことで9年間の学びを積み重ねられるカリキュラムづくりを行う。	○上二中の「探究の時間」に合わせ、今年度より本校の3～6年生も「探究の時間」と名称を変更し、①見付ける（課題設定）、②考える（情報の収集・整理・分析）、③表現する（まとめ・発表）の学習過程に沿って各学年で検討しながら授業を行う。 ○校内研究で学年以外の教員や専科等も一緒に授業検討することで、カリキュラム・マネジメントにつなげる。 ○単元ごとに内容を振り返り、来年度の単元配列表を計画する上で、今年度の授業を精査・修正する。	○Chrome bookを使った授業の研修会や日常的にmeetやclassroomを使うことで、教員がICT機器を活用した指導力向上に努める。 ○Chrome bookを活用し、登校できない児童に授業を配信し、学習支援をするなど、児童一人一人に対して、個別最適な学習を確保していく。 ○ICT支援員を計画的に配置し、教員や児童の授業における情報活用力を高めていく。

